

初のメーカーポジション、新型CPAP

サイサン

サイサン（川本武彦社長）は、メトラン製のCPAP新型機種「JPAP」（ジェイパップ）の国内総発売元として、1月から販売を開始した。

メトラン（埼玉県川口市2・12・18、中根伸一社長）は、現会長の新田一福（Terao Naoc Phuc）氏が1984年設立、主に人工呼吸器、麻酔器、モニター関係等の開発、販売を手掛ける国産医療機器メーカー。「ハミングバード」をはじめ、新生児、小児用の高頻度振動換気タイプの人工呼吸器では草分け的な存在で、医療機器開発には定評がある。設立当初は、大宮市に所在していたこともあり、サイサンの故川本宜彦会長とは、古くから親交があった。サイサン医療ガス部長の取締役長堀昌史氏は、「メト

ランと当社は親戚のような関係で、今回医療分野での事業で協調出来る事は嬉しく思っている。JPAPの医療機器としての優位性に大いに魅力を感じ、自社ブランドでの販売に挑戦する運びとなった」。メーカーポジションは同社として初の取組みとなると、発売に至った経緯を話す。

CPAP装置は、現在、小型化が商品開発のトレンドだが、小型化により、睡眠の妨げとなる「運転音が大きくなる」「一番重要な呼吸快適さが犠牲になる」などの欠点が生じるケースがあり、採用する医療機関にとっても、その点は気になるところ。同新製品は、「メトランの人工呼吸

器製造開発で培ったノウハウを駆使した自信作だ。また、エアベアリング方式の採用により、小型軽量ボディにして、高性能、静音化を実現したほか、自然な睡眠を追求し、処方範囲内で患者に合わせた呼吸パターンに同調できるナチュラルサポート機能も搭載した。また、睡眠時での口腔内の乾燥を防ぐため、通常6倍の加湿面積で呼吸の吸気時に十分な水分を含ませ、やさしく加湿する中空糸膜を連結ホースに内蔵した独自方式の「HUMMAXQE」を、呼吸回路システムとして採用している」とする。

販売担当責任者の開発営業課大塚達也課長は、「メトラン新田会長が、患者様の立場で、思い入れをもって、機能の充実に着手した。枕元で使う機器として、静音性はもとより、就寝中に手が触れても違和感のない丸みを帯びた形状と深いブルーの色合いで眠りを誘うフォルムとした。出張の多い新田会長が自身の質のよい睡眠にこだわった結果、抜群の性能と汎用性を実現することができた」と話す。

同製品は日本デザイン振興会主催の2016年グッドデザイン賞で「金賞」（経済産業大臣賞）を受賞した。



長堀昌史氏（右）とサイサン医療ガス部長の堀昌史氏（左）が、JPAPの本体と電源アダプタを手に持っている。



本体重量360gのJPAP本体とコントローラを一体化した電源アダプタ（右）